

大津町人づくりまちづくり海外派遣事業水難事故検証委員会 報告書【概要】

□ これまでの経緯

- ・令和6(2024)年 8月 1日(現地 7月 31日)
「大津町人づくりまちづくり海外派遣事業」を米国ネブラスカ州ヘイスティングズ市で実施中に、水難事故が発生
- ・令和6(2024)年 9月27日
「大津町人づくりまちづくり海外派遣事業水難事故検証委員会設置要綱」を制定
- ・令和6(2024)年 11月21日
「大津町人づくりまちづくり海外派遣事業水難事故検証委員会」委員を委嘱
- ・令和 7(2025)年 1月17日～4月21日
「大津町人づくりまちづくり海外派遣事業水難事故検証委員会」を開催(計6回)
- ・令和 7(2025)年 5月16日
「大津町人づくりまちづくり海外派遣事業水難事故検証委員会報告書」を町に提出

□ 事故検証委員会の委員構成

第三者の専門家として5人の委員を委嘱

委員種別	委員氏名	所 属 (委員委嘱時の肩書)
弁 護 士	ちば やすひろ 千葉 康博	千葉総合法律事務所 (代表弁護士)
医 師	ばば たかし 馬場 太果志	東熊本第二病院 (院長)
学 識 (社会学習/ 野外活動)	なかがわ やすたか 中川 保敬	熊本大学 (名誉教授)
学 識 (危機管理/ 災害対応)	たけうち ゆきこ 竹内 裕希子	熊本大学 (工学部 土木建築学科 教授)
学 識 (スポーツ/ 施設管理)	ふじもと ひろし 藤本 比呂志	一般財団法人 熊本市文化スポーツ財団 (事務局長)

※委員長は中川委員、副委員長は竹内委員

□ 報告書の構成

冒頭の「はじめに」から始まり、以下の5章立ての後、

- 1 事故検証委員会について
- 2 事故検証について
- 3 事故原因と課題の考察について
- 4 事故再発防止に向けた対策について
- 5 提言

最後に「むすびに」でまとめた報告書となっている

□ 報告書の内容

第2章の「事故検証について」で、事故発生時と事故後の状況についてまとめ、第3章の「事故原因と課題の考察について」で、事故の原因や課題を「事故発生前」・「事故時点」・「事故後」とプロセスに分けて考察している。そして第4章の「事故再発防止に向けた対策について」で、前章の考察に基づく対策を提案し、第5章「提言」で事故検証委員会から町への提言を行っている。

事故検証委員会は、当該事業の主催者である町に対して、「今回の事故の最大の原因は、水深が約4m(13フィート)もあるプールというリスク度が極めて高い場所での活動をプログラムに組んでいることに対して、危機認識と対策が十分でなかったことである。」と報告している。

また、事前の学習会等においても、「当該プール施設の構造を詳細に理解できていなかったうえ、随員職員にも伝えられていなかったことは重大な問題として指摘する。」とし、「リスクの認識や回避という視点が欠けていた。」としている。

その上で事故の発生時の状況分析として、「当該プール施設において、水深が深い場所が存在することをあらかじめ理解し参加生徒に飛び込みエリアへの立ち入りを禁止していなかったことが、本件事故を招いた主たる原因と言える。」とも報告している。

事故検証委員会は、前述した原因のほかに「様々な複合的原因が重なっている」ともしており、それらへの対策を20項目にわたり報告書の中で提案している。

そして最後に4点の提言を行っており、その提言の中で事前に「リスクについての学習の実施をする」ほか、「被害生徒のご家族の意向を尊重し、今後はリスクを十分に検討して事業プログラムを策定し実行することで、事業の継続を望む」としている。

——報告書の概要は以上のとおり。